

平成24年度 奈良県スポーツ推進審議会 第3回定例会

日時：平成24年12月20日（木）10：00～12：00

場所：奈良商工会議所4階 中ホール

1 開会

(司会)

ただ今から、平成24年度 奈良県スポーツ推進審議会第3回定例会を開催いたします。

なお、本日ご出席の委員の皆様及び事務局については、お手元の座席表に記載のとおりでございますので、あらためてのご紹介は割愛させていただきます。

今回、細川委員、横山委員につきましては所用のため、牧川委員については急な体調不良で欠席されております。

議事に入ります前に、本日の会議資料の確認をお願いいたします。

－資料確認－

本会議は奈良県「審議会等の会議の公開に関する指針」によりまして公開となっております。報道機関の取材及び傍聴をお受けする形で開催します。

本会議後は議事録も県のホームページに掲載するという方法で公開する予定です。従いまして、ご面倒ではございますが、ご発言につきましてはマイクを使用させていただきますよう、よろしくをお願いいたします。

それでは、議事の進行は、佐久間会長をお願いいたします。

(佐久間会長あいさつ)

改めまして、みなさんおはようございます。12月師走のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。これまでの4月及び9月の審議会で貴重なご意見を頂戴しました。その結果が今日の配布資料となっております。ある程度最終案に近い形で、本日もご検討をいただければと思っております。

この間いろいろなイベントがございました。今年9日の「奈良マラソン2012」は、改めてスポーツの動員力、スポーツの力を感じさせられました。また、そういったことを踏まえ、配布資料のようにまとめられてまいりましたが、本日も貴重なご意見等頂戴し、最終案に進めていきたいと思っておりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして、議事録署名人を指名させていただきます。根木委員と藤野委員をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

それでは、議事を開始したいと思います。まず事務局より説明をお願いし

ます。

－事務局説明－

2 議事

佐久間会長： 新しい推進計画案について、ご意見を頂戴できればと思います。今までの審議会でご検討いただいた、計画の理念、目指す姿として大きく4つ「Ⅰだれもがいつでも楽しめるスポーツ」「Ⅱ地域で楽しむスポーツ」「Ⅲあこがれ・感動を生むスポーツ」「Ⅳスポーツ環境の整備」についてまとめられています。

藤野委員： すばらしい計画案だと思います。この計画を推進するに当たり、県行政のみということではなく、各市町村と連携して、計画の推進、環境の整備等を図っていくことに関して、具体的に「県・市町村スポーツ推進協議会」の設置をどう進めるのかについて伺いたいと思います。また、市町村施設等の検証・整備検討ということで、市町村にはそれ相応の施設等ありますが、今後その市町村施設の利用、あるいは改善をどのように進めていくのか、具体的なことを伺いたいと思います。

事務局： スポーツ推進は、県だけで進められるわけではなく、奈良県全体として取り組んでいく必要があると考えています。そのためには、市町村、民間企業を含めた多様な団体との連携が必要と考えています。市町村との関係では「県・市町村スポーツ推進協議会」の設置を考えています。民間との関係では、名称は未定ですがスポーツコミッションなど民間に加わっていただく協議会的なものを考えております。

市町村との関係では、これまでのような、一つのテーマによる会議や事項の伝達のみならず、イベントなどを通じてスポーツを推進しようということに、市町村にも加わっていただきたい。また、市町村のいろいろな事業をうまく組み合わせながら奈良県全体で盛り上げるやり方ができないかと考えています。そのようなことを協議会の場でしっかりと議論していきたいと考えています。

また、施設に関して、市町村の施設、県の施設がありますが、これらは限られた資源ですので、役割、機能を明確にし、有効活用を検討するとともに、施設が老朽化していることも事実ですので、財源の確保や整備の方法を検討していく場を設置したいと考えています。

佐久間会長： 確かにこれまで、本県に限らず、色々なところで県は単なる指示を出すという感が強く、本当の意味での有機的連携は乏しかったのではないかという感じを持っております。特に施設の連携では、個々に市町村立等の、色々な団体が施設を持っています。老朽化ということも出ましたが、本当に活用していく上で、しっかりと改善されていくかは、財政的なこともありますので、県はその意味での指導をしっかりとお願いしたいと思えます。

辰野委員： 前は出席できず、申し訳ありませんでした。今回の計画案を見て、パワーアップしたなという実感があります。ただ一つ寂しいのは、私の専門の山歩きやカヌーの色が薄いということです。

「地域で楽しむスポーツ」のジャンルに入ると思うのですが、例えば大阪ではダイヤモンドトレイルという、生駒山から葛城・金剛までコース全長70kmほどのトレイルランがあります。このイベントは、具体的にはトイレの整備など、市町村と密接に連携しながら、地域の活性化になっています。スポーツというと、ヒルクライムなど競技性イメージにシフトしていきがちですが、365日そこで楽しんでもらうという意味合いでいうと、もう少し生涯スポーツというか、年齢を問わず楽しんでもらえることを意識していただきたいと思えます。

そして、奈良県には熊野古道や奥駈道など、すばらしい歴史的な道があるわけです。これを活かすことでスポーツツーリズムに寄与できると思えます。カヌーでは、吉野川は障害者カヌーの発祥の地です。川へのアクセスを車いすでも入っていけるように少し整備してもらえればと思えます。

事務局： 資料1のP16「スポーツイベントによる地域の活性化」に記載の精神で取り組みたいと考えています。具体の取組みはまだまだ書ききれませんが、委員の指摘を踏まえ、内容を充実していきます。

福井委員： 前もって見ていましたが、計画案はよくできていると思えます。総合型地域スポーツクラブは、皆様のご尽力で、ここ数年で全県に広がりました。まだ未設置が3村ありますが、現在準備中のクラブが1日も早く活動できるようにと思っています。ただ、現在活動中のクラブも体力増強が必要です。特にクラブマネージャー、指導者など人材の確保、そして安定的な運営のための財源の確保、会員の獲得、事業の充実など、それぞれのクラブの活動を活発にするために、スポーツ支援センターによる一層のご協力・

ご指導をお願いします。

奈良マラソンにおいては、全国から多くの方が参加され、奈良マラソンの開催によって、ジョギング・ランニングの愛好者が増えてきたように思います。橿原公苑で開催されているナイトランにも、子どもから高齢者まで多くの方が参加されているようです。奈良マラソンでは、今年4,600名のボランティアが参加され、沿道では多くの方々が声援を送られました。このようなイベントは、スポーツの振興とともに、観光振興や地域振興にも大変効果的だと思います。

来年度もイベントによるスポーツ推進の取組みは、色々予定されております。総合型地域スポーツクラブにおいても、地域の皆さんを対象としたイベント、トップアスリートを通じた子どもを対象としたスポーツ教室、また南部地域は豊かな自然が残されていますので、県内外から多くの方が来られ実施するイベントもたくさんあり、スポーツの推進に役立つことと考えています。

来春は橿原公苑のジョギングステーションがオープンし、平成26年7月には新県営プールがオープンするなど、新しい拠点施設が整備されますが、学校施設や市町村施設など既存施設の有効活用もよろしくをお願いします。

佐久間会長： ありがとうございます。これまでの改善された変化の状況を、総括的にまとめていただきました。

川崎委員： 「だれもがいつでも楽しめるスポーツ」に「健康ステーションの設置（血圧測定等健康づくりのできる地域拠点）」と書いてあります。私事になりますが、私の主人は内科医をしております、診療所の裏手にはちょっとしたリハビリテーションの場があり、私もリハビリテーションのお手伝いをするのですが、スポーツとリハビリテーションというのはとても大きいと思います。

先だって、膝が痛いという方にノルディックウォークを勧めさせていただきました。その方がノルディックウォーク協会の馬見丘陵公園での会に参加されて、今まであれだけ歩けなかったのに、ノルディックウォークを使って1時間歩けた、スポーツを通してリハビリをすることで、膝がかなり良くなりました。

このようなことを見ると、スポーツは元気な方がさらに健康を維持するのに必要なことですが、病気になりかけや未病の方に一つのきっかけとしてスポーツ、リハビリテーション的なものを加えると非常に変わるものだと思います。それと全国的に言われ

ているように、医療費がかかっているのが抑えられるのではないかと思います。健康ステーションの設置と書かれていますが、その中にはリハビリテーション的なことも考えられてということでしょうか。

健康づくり推進課：健康ステーションということでイメージしていただきたいのは、例えば目的としては、高齢者の方が外出して、歩くことの動機付けをしていきたいと考えています。地域のスーパーなど出歩きやすい場所をイメージしており、そこに行くと、歩数計や体重、血圧などを測れるよう測定機器を設置することを考えております。日々使っている歩数計をそこに持っていくとグラフにでき、その時の体重、血圧を測定できるなど、健康チェックができる機能と、機械だけ置いているのではなく、機械操作をするアドバイザーや簡単な健康的な生活方法をアドバイスする方を置きたいと考えております。そこで参加者同士のコミュニケーションや案内人とのコミュニケーションを図れるということで、一人でも多くの方が外出して出歩くことで、健康を維持していただきたいと、そのような拠点を作っていききたいと考えています。

笠次委員：すばらしい計画だと思います。事務局の方と話しながら感じていたのは、この計画としては、行動変容がキーワードになると思うのですが、「だれもが、いつでも、どこでも楽しめるスポーツ」という時に、スポーツに関心のない人をいかに振り向かせるのかということが大事だと思います。

この計画で、いわゆる上流・中流・下流で言えば、上流のアプローチの一番大きな「環境」というものが整って、関心を持たばスポーツをやろうという時には機会が整ったわけですが、一番下流の部分で、スポーツに関心のない人たちをいかに振り向かせるのかということが重要です。子どもへのアプローチとして「奈良県地域教育力サミット」で学校体育と地域スポーツの連携を図ると先程の説明でありました。従来の総合型地域スポーツクラブは、スポーツに関心のある子どもたちはどんどん来ますが、学校にはそうでない子どもたちがいっぱいいます。スポーツに関心のない子どもたちをいかに振り向かせるかということで、「地域教育力サミット」が重要です。ここで、運動・スポーツを保護者にも広げていき、この保護者が大人のスポーツ振興につながっていくと思います。大人にも無関心層がたくさんいますが、大人にどうアプローチしていきたいと事務局では考えているのでしょうか。色

々な方法があると思いますが。

事務局： 関心のない方にしっかりと取り組んでいただくことが非常に大切だと思っております。子どもについては、まずは関心を持ってもらう、楽しんでもらうということで、トップアスリートを活用したスポーツ教室を実施し、そこには子どもだけでなく親も一緒に参加できるようなものにする必要があると考えています。具体的に事業を展開する際にはその仕組みをしっかりと考えたいと思います。基本は子どもを対象にしていますが、親も参加してもらえればと考えています。

それともう一つ、リレーマラソン大会などのイベントを考えていますが、できるだけ家族や大人と子どもでチームを組むような仕組みをとりたいと考えています。そのほか教育委員会でも親子で楽しめる事業を実施していますので、このような事業を通じて親を一緒に取り込んでいければと考えています。

笠次委員： 大人が健康を意識するのは、健康診断、職場の健診だと思うので、そういうところをきっかけに、運動しようかという刺激が加わる時に、そこからどんどん広げていけるようなアプローチが必要です。県として、職域や健康診断といった場によくアプローチして、そこから広げた時に、民間や市町村にいくらかでも運動する機会があるというように、うまくつなげていくことができれば素晴らしい。無関心層をいかに振り向かせるかというところが本当に大事になってくると思うので、二極化の下のところをいかに引き上げてくかということが、医療費の削減も含めて、本当に我々の将来にも関わってくることだと思えます。これについては、ぜひよろしくをお願いします。

また、運動だけでなしに、車より電車、電車よりも徒歩、自転車といった運動以外の身体活動、例えば、通勤が非常に大事だと思います。30歳代、40歳代の一番運動したくてもできない人たちに、いかに身体活動量を上げるように仕向けるかというところで、例えば近鉄電車とか、公共交通機関で歩くことの大事さをアピールする、そのほかいろいろなところで県民にスポーツの重要性をアピールして、県民が気づくことができるような入口、窓口を作る、そういった努力を是非していただきたいと思えます。

教育委員会事務局保健体育課： 笠次委員のご意見に関して、資料5の「だれもがいつでも楽しめるスポーツ」にあります「夏休み大和っ子スポーツウィーク」「チャレンジ運動フェスタの開催」等々、教

育委員会で実施しているところです。これについては、本年度も実施しており、「チャレンジ運動フェスタ」は、今月22日（土）に開催予定です。対象は学童ですが、保護者には各学校からチラシ等配布し、すべての保護者にいきわたるように啓発をさせていただいております。参加対象は、学童自身とその弟妹など幼児も対象にしております。また親子で、お父さんお母さんも一緒に体操で楽しみましょうというプログラムも設定しております。特に本年度からこのように学童に限らず、保護者の方も一緒に参加していただく形もつくり、一つの目玉としてプログラムにしております。来年はそれをもっと工夫していきたいと考えております。

佐久間会長： 教育委員会の方から説明がありましたが、関心のない人に関心を持たせるかということが、一番難しく、問題になるところだと思います。確かに防災の例にもありますが、子どもたちの力は非常に大きい。またこのままでは大変なことになる可能性があるという脅威感も、運動の有意性につながっていくというモデルもある。そういった意味で機会を利用して働きかけを行ってもらいたいと思います。

委員の方からご意見はございませんでしょうか。

根本委員： 前はパラリンピックがあつて欠席し、申し訳ありませんでした。パラリンピックに行つて、日本は障害者スポーツが立ち遅れているなど、つくづく思いました。メダルの数だけではないですが、アテネで55、北京で27、今回ロンドンで16でした。世界ではスポーツの一元化が言われています。障害者スポーツも一般のスポーツも同じように、スポーツという一つの中で進めていくという風が大きく吹いていますが、日本はそういうところが遅れていることがはっきり出たなと思います。

それでいうと計画はメインで「だれもが楽しめる」という、この「だれも」という言葉は、とてもすばらしいと思います。この言葉が入るだけで、大きなことが変わったなと思っています。そのことも皆さんに意識してもらえたらと思うのですが、新たに整備する施設や新たな取り組みは、そういう視点があつて、例えばバリアフリーなどは当然です。でも既存の建物は、改修などほとんどされていない。予算の問題で放っておかれているところがあると思います。新しいものは使いやすくていいのですが、その辺をどう進めていくのか、障害者スポーツの推進というところで、フェスティバルやスポーツ大会の開催や人材の育成は盛り込まれ

ていて大切なことなのですが、既存のものに工夫するだけでもどんどん変わります。現状では本来はだめだということを各関係機関の人が少し認識するだけで、かなり変化と思うので、そういう視点がもう少しあってもいいのではないかと思います。

具体的に、最終的には地域の住み慣れた場所で施設があり、だれもが使えるということが最も重要だと思います。総合型地域スポーツクラブの中に障害者も指導できる人がいたり、地域の中で障害のあるなしに関わらずだれもがスポーツができる環境づくりができれば良いと思います。

奈良県の障害者スポーツにとって、心身障害者福祉センターが拠点となると思いますが、まずそこを見ても、できたときは、宿泊施設がありプールがあり、最新の施設だったと思います。ですが、現状は2階建てなのにエレベーターがなく、大きな長いスロープがある。また駅から離れているのですが、駅から点字ブロックがない。そういう環境がまだまだできていないということ、この場を借りて皆さんに確認してもらいたい。スポーツをみんなが楽しめるということの意味をもう一度考えていただきたいと思います。

佐久間会長： ありがとうございます。個人的なことですが、その施設に障害者スポーツ指導員の資格を取りにいったのですが、こんな遠いところで、車の免許がない者には駅から歩いて行くだけでも大変で、本当にどれだけの人がここを利用できるのかという思いを抱いたことがありました。

事務局： おっしゃることは理解しております。平成26年7月にオープンする新しい新県営プールは、そういったこともしっかり配慮した施設になるよう、現在整備を進めています。ただ、やはり問題は既存の施設です。最新のものを、良い場所に作ればそれに越したことはないのですが、限られた財政の中で、いろいろなものを活用していく必要があると思っています。既存の施設を、機能も含めて、役割を県や市町村も含めて考えていく必要があります。

県の施設も市町村の施設もそうですが、今もっているポテンシャルをどう活かすのか、それから、どこにどういう機能を持たせていったらいいのか、それはやはり県全体でしっかり考えていく必要があると思っています。ご指摘の施設もそうですが、他も含めて使いやすいよう、どういう機能を整備するかを検討する必要があります。

辰野委員： 私も障害者カヌーと25年ずっとおつきあいをしてきて、おっしゃることはよくわかります。独立行政法人の評価委員をやってきて、青少年自然の家の運営の評価を10年間やらせていただいています。最初からずっと言い続けてきたことは、まさにバリアフリーの話と禁煙の話の2点です。どういうことが問題かということ、障害者のトイレが一番問題だと思います。障害者トイレというのは、特別扱いですが、普通で良いわけです。アメリカでは、場末の中華料理屋もレストランでも必ず障害者トイレがあり、これは国が法律で決めているのです。もともとはベトナム戦争で負傷してきた人たちが、「我々は国のために戦って帰ってきたのに、この仕打ちは何事だ」と声を上げて、それで法律が変えられたのです。

私の事務所も建物の12階にありますが、トイレは全部が障害者が対応できるトイレです。これは決してすごいものではなく、手洗いのところの隔壁を外して、ちょっと手すりをつけてあるというものです。新しい施設の障害者トイレはすごいものになっていて、鏡は斜めになって、取手はこうでないといけない、ドアは自動ドアのようなものでないといけないと、あまりにも0か100ではなく、300というような扱いです。

既存のものを活用して、いくらでも良くできます。少し知恵を使えば、お金をかけずにできます。そういう環境をつくることで障害者雇用にもつながります。彼らが一番困っているのはトイレとエレベーターです。スポーツの話ではなく根本的な話ですが、これは高齢者も同じだと思います。この点で、奈良県はすごく知恵を使ってやっているなというモデルができるのではないかと思います。そういうことは各47都道府県みんな気がついていないことです。みんなすごいことをやろうとしますが、そんなことはやらなくていいから、すぐできることで知恵を使っていけばいいと思います。

佐久間会長： バリアフリーの問題というのは、障害を持っている人だけではなくて、明日は我が身という発想を常に持っていないといけない。決して特別ではないことを強調しておきたいと思います。

泉本委員： 今、障害者のトイレのことが出ましたが、「Ⅳスポーツ環境の整備」のところ、少し具体的なことに欠けるのではないかと思います。「Ⅰだれもがいつでも楽しめるスポーツ」「Ⅱ地域で楽しむスポーツ」「Ⅲあこがれ・感動を生むスポーツ」はそれぞれ

の指標と目標数値を書いているのですが、IVは指標や目標数値はなくて、「活用」「検討」「研究」となっている。これは予算と絡む問題で大変だと思うのですが、先ほどの障害者のトイレを100個修繕するとか改築するとか、何か目標を決めたほうがスムーズに行くのではないかと感じました。会社経営では常に目標を決めて、それに向かって社員が業務をおこなっていくわけですので。

佐久間会長： 「IVスポーツ環境の整備」だけが具体的な数値目標がないのでということです。

岡下委員： 町村長では私が一人ですので、日頃思っていることについて、お伝えさせていただきます。

その前に、平成25年度の取り組みで、先日大淀町で県の農林部と協力し、主題はまちづくりでしたが、10kmのウォーキングを開催しました。一番の目的は農業の振興でいろいろな農業の体験していただくこと、そして町を知っていただく定住化政策の一つとして実施したのですが、実際はスポーツです。ですから、こういうこともこの中に入れていただければ、より充実した案になるのではないかと思います。

次に、既存設備の充実の話ですが、色々な施設を整備し、10年、15年、20年経ってくると改修が必要です。最初に整備する時には色々な補助をいただいて実施しているのですが、改修するとか、新たに部分的に変えるとなると補助がまず出ない。町単費でやらなければならないということがよくあります。かなりの費用がかかります。そういう面を考えていただきたい。

大淀町がある奈良県の南部はほとんどが山ですが、町のスポーツセンターがあります。いろいろな機械器具があり、プールもあるのですが、色々なものが必要で経営も大変です。近隣の皆さんもよくやってくるのですが、補修、機械器具の入替えも、これもほとんど町単費でやっています。町村長としては、そういう面も県の方でよろしくお願ひしたいと思っております。

南委員： 今回はスポーツ推進計画ということで、具体の一つの目標を提示していただいたと思います。先ほど施設の老朽化、また障害のある人ない人への対応についてご意見があったと思います。この計画が本当に奈良県のスポーツの分野で、無理して早急にどうこうというのではなく、空気のように広まっていくと、障害をお持ちの方やスポーツに入ろうとしない方にも、これが動機付けになると思います。そういう意味で地道な努力を重ねていくことだと

思います。大淀町長さんから施設の老朽化の話が出ましたが、色々な方法で知恵を絞ってやっていかないと、これは早急に状態が変わるものではないと思います。今回一つの動機付けを示していただいたと考えています。

佐久間会長： ありがとうございます。いろいろな捉え方はあると思いますが、目標としてこの4つ、これを推進していきたいと考えています。スポーツ環境の整備で具体的な目標とか、色々な意見が出ていますが、ご意見はございますか。

笠次委員： 「Ⅱ地域で楽しむスポーツ」のイベントで、奈良マラソンがありますが、私は救護で関わっております。今回は13箇所の救護所、AEDを除く25チームで、医療関係者だけで医師・看護師・救命救急士合わせて80名、走って救護に関わるランニングドクター40名、合計120名の医療支援という形で、2年連続でランナーの心肺停止ゼロで終わらせることができました。今年は去年より気象条件が悪く、朝は雪も積もっていたこともあり、受診者は多かったので、重症例は去年より減っております。大会当日の医療体制というのは、実は年間通して準備しており、年々整ってきております。

この奈良マラソンというコンテンツをもっと活かしたい。11月に日本臨床スポーツ医学会に行ってきたのですが、シンポジウムの演者が、開催わずか3回目にして日本のマラソン大会の5本の指に入っているというのです。非常にクオリティが高い、行って楽しいマラソンで、東京、大阪、神戸よりも奈良が良いと言うランナーも多いという話を聞いています。その中で県民の応援がすごくあたたかい。イベント会場のブース出店料についても、奈良はかなり低く抑えてくれているらしくて、業者の人に聞いても奈良は非常に出店しやすいし、みんな前日から楽しんでくれていると言います。あの奈良マラソンのコンテンツをもっと活かさないか。その考え方を他のイベントにも波及できないか。奈良マラソンは、はじめてマラソンを走る人が多くて、我々、整形外科医は苦勞しているのですが、これをきっかけにマラソンをはじめたという人も、大会当日はホスピタリティを持って迎える。それだけではなく、次は、年間を通して奈良マラソンというコンテンツを使って、健康保持増進、一次予防、これを機会にスポーツを始めたいという人に、色々なスポーツの楽しさ、それからケガや故障にならないように、そういうことを提供していきたい。

また、このスポーツ推進計画の中で、各部署でとても頑張っているということはよくわかるのですが、その頑張っているそれぞれの部署を、有機的にもっと結び付けられるように、全体を見渡せる人が、県だけでなく市町村単位でも、それぞれの地区に必要なのではないかと思います。行政の市町村のレベルでも全体がわかっている人がそれぞれにいる必要があると思います。そうすると、こことここが結びつけられるというようにうまく結びつきやすい。県という上流で作ったモデルを市町村の部分で結び付けていくには、それぞれの市町村レベルでも県全体の各部署の計画がわかっている人をぜひ配置していただければと思います。

佐久間会長： 物的資源、人的資源だけでなく、全体を見渡せる、良い意味でのマネジメントする組織が必ず必要になってきます。そういったものを加えていただければと思います。

奈良マラソンについては、私の職場の同僚も大阪、京都、神戸、色々なところに出ているのですが、応援の人、色々なブースでも、奈良ほど熱心なところはなかったと言っていたことを付け加えておきます。

稗田委員： 私も商売柄、色々なマラソン大会を見ていますが、奈良マラソンは非常にアットホームな、身近に感じるマラソンだという声を、ランナーからも、協力させてもらった社員からも聞いております。マラソンレースの1日だけではもったいない。奈良の観光に活かす形で、今はレース前日と当日の2日間ですが、もう1日参加できるものがあれば、県外から家族で来られて、もう1泊して奈良の観光を楽しむということを考えられたら、もっと経済効果もあっていいのではないかと思います。

総合型地域スポーツクラブの件ですが、冒頭、福井委員からありましたように、財源の確保、指導者の育成など、非常に多くの課題があると思います。目標数値として、現状55クラブを10年後150クラブという数値が掲げられていますが、私自身は大変これはチャレンジな数値だと感じます。実際に実現可能な数値なのかということと、それを実現するために財源確保が大きなネックになるのではないかと思うのですが、このあたりどのような決意・覚悟で考えておられるのかを伺いたいと思います。

事務局： 総合型地域スポーツクラブについては、当面は、来年度中に全市町村での展開を当初から計画しております。その次が中学校区に1つで100クラブ、その先が小学校区でおよそ200クラブを目指し

ます。当然、チャレンジしていかないとそれにはいかないと
思います。地域にそれくらいクラブがないと、ここに掲げている「だ
れでも、いつでも、どこでも」ということにはならないと思いま
すので、しっかりと努力していかないといけないと思っています。

川崎委員： 最後にちょっと、先ほども言いましたが、「I だれでもいつで
も楽しめるスポーツ」で健康ステーションの設置というのがどう
も気に入らない。というのは、外出の拠点にするためとか、健康
チェックと言われますが、健康チェックならお医者さんにいつて
しまう。足の悪い方は外出しにくい、せめて病院にいくだけの外
出という方が結構多い。もう少し健康ステーションの設置対し
て、あり方を考えていただきたいと思います。

それと、総合型地域スポーツクラブは、いろんな形、いろんな
タイプのものでできていいと思います。中身がそれぞれ違って
いいと思います。一つ感じたことは、昨年ドイツに行った時に、
その総合型地域スポーツクラブなのですが、心臓疾患を持って
おられる方は普段運動できないのですが、でも運動したい、だ
から自分たちが運動するためにクラブを作って、常にドクターが
いて、ドクターの指示のもと、色々ともてもらいながらスポ
ーツをされている。「だれでも」ということに関しては、病
気を持っていてそれが障害になってスポーツができないという
ことではなくて、そういった方がスポーツをしたいということで
環境を整える、クラブの中で環境を整えて自分たちでスポ
ーツをしていますと言われたことが、大変印象に残っています。

ですから、だれでもが、いつでも楽しめるという場所を考
えていくことにあたり、確かに最初は市町村に1つ作って、中
学校区に作って、小学校区に作ってというのはあるかもしれ
ないけれども、それぞれの目的、多少違った目的の総合型
地域スポーツクラブができていいと、私は感じております。

佐久間会長： ありがとうございます。確かに運動・スポーツの目的は、
心理的効果も大きいものですから、単に病院にいけばいい
というわけではない。整形外科や理学療法士の指導だけでは、
必要な運動、こうすればいいということは教えられても、
運動の楽しさは伝えられない。それで続かずに途切れて
しまうと、閉じこもってしまうことになってしまいます。
そういった時点で運動の楽しさを教えられるということ
には専門性が必要だと感じています。

朝原委員： 「地域で楽しむスポーツ」ということで、先ほどマ
ラソンの話

がりましたが、なぜみんなこんなにマラソンがやりたいのかを考えました。みんなの中でどれだけで走ったらすごいという数字がわかっている、みんな目的がありながらやっていて、達成感が得られる、健康増進にもつながるといってやっているのでと思います。色々なイベントなどを考えてみると、選手を呼んで、ペースメーカーを使って、よくイベントをしています。奈良でも、例えば、4時間で走りましょう、そのためにこのペースで走ります、というようなイベントをつくるのか、具体的なことも見えてくるのではないかと思います。

それに関連して、僕は、競技スポーツでやってきましたが、子どもの頃は、地域の子どもたちと遊んで体力をつけてきました。山登りは、奈良の自然ということもあり、「だれでも」ということで実施できるのではないかと思います。山登りのイベントを何度もしたのですが、子どもたちは、山に登ろうといっても、登りたがる子どもは少なく、親子で登るのですが、めちゃくちゃ人気ということはありません。頂上に行って僕の陸上教室がありますとか、カレー鍋がありますとか、バーベキューしますとか、そういうイベントがあると子どもたちも喜んでくるのではないかなと思います。食育と絡めて自然を使ったウォーキングや山登りをして、最後にバーベキューをして、食材は奈良で取れる野菜を使うとか、そういう地域の特性を活かしたものをできるのではないかと考えていました。

それともう一つ「あこがれ・感動を生むスポーツ」ということで、「競技力の向上」があります。陸上競技では学校の部活動が一番に競技力の向上、強化に当たるのですが、部活動がなくて、僕がやっている陸上クラブに入ってきている子がたくさんいます。学校の部活動が危うい、昔ほど熱心にやっているところが少なくなってきたということがあるので、総合型地域スポーツクラブの重要性がますます出てきています。ただ、ドイツのように総合型地域スポーツクラブで全部まかなえるかというところ、それは無理だと思います。部活動とクラブの連携をとっていかないと、日本の競技力は上がっていかないのではないかと思います。それはずっと言われてきて、なかなか結論は出ないですが、それを奈良県が先頭に立って対処していけば、一つの素晴らしいモデルになるのではないかと思います。

佐久間会長： ありがとうございます。いくつかの点がありましたが、ス

ポーツと奈良の食材を活かして地域振興を図るということもひとつの考え方だと思います。これも以前から言われている点ですが、学校部活動と総合型地域スポーツクラブや個々でやっている教室との、特に競技力を伸ばすところとの関連性というのは難しい問題だと思います。その点につきまして、保健体育課に伺いたい。

教育委員会事務局保健体育課： 現在奈良県では「地域教育力サミット」を設置し、様々な角度から、地域と学校と、当然保護者を含めた形ですが、教育力を高めるための色々な議論をしていただいております。その中で一つの部会として「学校地域スポーツ連携部会」を設置し、第1回部会を11月に開催したところです。朝原委員からもご意見がありましたように、学校体育、運動クラブは昔に比べて活動が低下傾向にあり、これは指導者の高齢化の問題、あるいは生徒数の減少から、一つのクラブが人数的に形成できないという問題が現実にあります。こういったことから地域クラブとの連携が急務であるということで、来年1月に第2回目の「学校地域スポーツ連携部会」を開催し、その中でクラブと学校体育との連携、またその施設の有効活用などについて議論していただくことになっております。

岡下委員： 今、学校スポーツの件が出ましたが、クラブ活動は学校の先生次第です。その先生の熱心さで、学校がいっぺんに強くなります。この先生が学校を移ったら、次の学校が強くなるというのが、現実的にあります。そこで、多くの教員の定年退職が重なって、何年か先には先生方がかなり大量に必要になるということを聞いています。その際の採用基準に、スポーツができる先生を別枠で採用できる制度などでも考えていただけたら、というのが私の考えです。

もう一つ、中学校や小学校で、例えば大淀町では良い成績を上げる生徒を町役場で表彰しています。遠征に行くのに町のバスを優先的にまわして、生徒や家庭の負担を少なくするようにしています。子どもたちにやる気が芽生えてきて、頑張ってくれていますので、各市町村もそのようにすれば良いのではと思います。

佐久間会長： 先ほどの保健体育課からの説明について、朝原委員いかがでしょうか。

朝原委員： 学校間の問題でも、人数が少なく、少ない学校同士が合同で部活動の練習をして、どちらが受け入れるかということで、受け入れるほうも大変という話を聞いているので、「地域教育力サミッ

ト」における協議などで、スポーツの連携ができるよう期待したいと思います。

笠次委員：先ほどの、奈良マラソンはアットホームだということですが、実は宿泊がいっぱい泊まれない、それで大阪や京都といった他府県に泊まってわざわざ来るランナーが多いのです。これはあくまでも試みですが、単に競技の係員という形で現場に出るだけではなく、ホームステイで選手を受け入れ奈良を楽しんでもらうという形でのボランティアの採用をしてはどうかと思います。国体でもそうですが、ホームステイで泊まってくれた選手を、ホームステイ先の家族がみんなで応援に行くと、泊まってくれた選手が大会に出ているということで、さらに県民で支えるという形になっていくと思います。これは難しいかもしれませんが、せっかく泊まりで来てくれている人たちがたくさんいるのに、大阪・京都に泊まっているのは非常にもったいないので、ぜひ検討していただければと思っています。

藤野委員：議論がずれてきている気がするので戻します。スポーツ推進条例について、平成25年で検討、26年で目標とあります。後ほど総括でお話されると思いますが、知事に思いを聞かせていただきたいです。これは県民にとってもかなり影響というかインパクトがあると思うので、お願いします。

そして、すこし事務局の方にお聞きしたいのですが、このスポーツ推進条例のような条例は全国にどれくらいありますか。もしわかるようであればお答えいただきたいのですが。

事務局：47都道府県中いくつかということまではわかりませんが、いくつかの都道府県でそういった推進条例を持っていて、まったくないということではありません。

辰野委員：議論がまたずれてしまうかもしれませんが、私どもには東京に事務所があり、東京にも行き来していますが、東京の人は本当に走るのが好きです。ビジネス的に成功している事例で、それは皇居の近くにマラソンで走る人のための施設があります。シャワーを浴びられ、着替えられる、そんな大層なものではありませんが、そこにはちょっとしたランニンググッズのようなものを扱っています。

ランニンググッズは別にしても、まちの1丁目1番地の、奈良駅を降りたところに、そういう施設が一つあるだけで、このまちがスポーツに熱心だなと、物理的、視覚的に、すぐ訴えることが

できると思います。私たちのところにはハイキングのお客さんも多く来られますが、そういった人たちが立ち寄れる案内所といったものが、1丁目1番地の、駅前の一番良い所にあるとすばらしい。障害者のための施設が駅から離れたところにあるという話がありましたが、どうしても離れたところにあると、せっかく良いことをやっても目立たないということもあります。

走る方にとって、そこにいけば服を着替えられて、終わって汗をかいたらシャワーも浴びられて、そのまますっきりして帰られる状況があればと思います。私は、高畑に住んでいますが、奈良マラソンの前には、あの辺りを皆さんが走っていました。普段は見ない光景です。マラソンがあるというと急にランニング・ジョギングの人口が増えたと、どなたがおっしゃっていましたが、365日そういう環境を用意してあげる、拠点というかポイントがちょっとあれば、ここは自分たちが走っていい場所だと思えます。自転車でいうと、自転車のサドルをかけられる喫茶店があれば、あの喫茶店に行けば自転車が置けるスタンドがある、それだけで、自転車に乗る人は、そこに置いて安心してお茶が飲めます。そういうちょっとした統一性を、まち全体、県全体で持たせれば、雰囲気が変わってくると思います。雰囲気はすごく大事だと思います。

佐久間会長： ありがとうございます。確かにおっしゃることには私も同感です。奈良マラソンのことで、ぜひ伝えてほしいということがありましたので、ご紹介させていただきます。ある方に今まで色々なマラソンに出た中でこんな思いやりのある大会は初めてだと言われました。その理由を尋ねると、補給所で飴玉をもらったが、飴を出すだけでなく、皮までむいてくれて、疲れていて余計なことはやりたくないという時にそんなことをしてくれたのは奈良が初めてだったと言われました。そうした思いは経験した人でないとわからないかもしれませんが、ちょっとしたことでも奈良は違うとその方はおっしゃられていました。

それぞれの委員から、最初に申し上げたように、どこにでもあ
るものではなく奈良モデルをつくりたい、全国に発信できるよ
うな奈良モデルをつくりたいということで、今回も色々ご意見を
いただきました。

それではまとめの意味を含めて、知事の方からお話しいた
きたいと思います。

知 事： いろいろなご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。この審議会においては、スポーツ推進計画を中心に議論をしていただきました。藤野委員が言われましたが、どれが中心でどれが外れているかは別にして、いただいた意見は全部スポーツを何とかしたいということで、全て貴重だと考えています。この計画は、県のスポーツ推進計画でございます。県は何ができるのかということ、県としてはいつも考えながら進めるわけですが、スポーツを推進する主体は市町村もあり、民間もあり、色々ありますので、だれが何をすればいいのかということは、難しいことでもあります。こういう議論を通じて、考えをそれぞれ出していきたいと思っております。

奈良県がスポーツ推進計画に力を入れようと思ったきっかけは、まず学校の生徒さんの体力が42位か43位で、全国的に大変低いということにあります。どうしてそんなに低いのか、学力はあるけれど体力が低い、規範意識も低い。学力よりも体力や規範意識の方が大切であるということで、学校の生徒さんのスポーツ振興が大事だと思ったわけです。

もう一つは、健康についてで、健康を増進しようとする中で、大事なのは運動と食事と外出ということで、スポーツを振興しようということ、3年ほど前に発念しました。その中で、スポーツの振興が奈良県では遅れているのではないかという感じを持ちました。それはなぜかと聞いてみると、最初には、お金が無い、施設がない、人がいないとか、そういう範囲の話になってきますが、私は意欲が無いのではないかと思います。もう少し言うと、意欲が無いわけではなく、スポーツの意欲が分散している、まとまっていないという感じがしました。スポーツをされる人は自らが行うスポーツには熱心ですが、他のスポーツには、あまり関心を持たれない。悪くすると足を引っ張るといのが目に付きました。そういうことではいけないのではないかと、誰がどのような競技のスポーツを振興しても、それはそれで良いのではないかとというのが、県の立場であるべきではないかと思ったわけです。なかなかスポーツの種類も多く全部一緒に振興はできないわけですが、できるところからやっというのが県のスタンスであります。

それは、この推進計画にも表れていると思います。できていないところもあるわけですが、県でできることはなんなのかという

ところから始めたわけです。できることから県が中心になってやってみようというわけです。それは、イベントで言えば、奈良マラソンのように、活動して、活動するとヒューマンネットワークができる、やってくれる人が集まる、それが力になって色々動く。その次にやっていると施設が足りないとなるかもしれない、トイレが足りない、シャワーがどうだ、ということになれば、利用できる施設はどうだとなる。施設ありきでないということを強調したい。活動ありき、活動しながら施設の整備もしようということです。奈良のスポーツ振興計画は前からありましたが、施設計画が入っていなかった。だからそれはおかしいのではないか、施設もスポーツ推進計画に入れようということで、かろうじてこの「IVスポーツ環境の整備」になりました。そういう思考の流れであります。施設の事についてはあとで申し上げます。

今日いただいた大変有益な意見がたくさんありましたので、うまく総括できないかもしれませんが、順不同で説明させていただきます。

一つは、朝原委員のご意見にもありましたが、学校のスポーツとクラブスポーツ、プロスポーツ、トップアスリートのスポーツを、どのようにそれぞれの性格をみて振興するのかということは大事な課題であります。

スポーツの振興は、教育委員会にしか置けないという国の法律がありましたが、何年か前に県の知事部局にも置いてよい、市町村にも置いてよい、教育委員会から外してよいという法律の改正がありましたので、奈良県はスポーツ振興課を県の組織で、知事部局に置きました。そこが奈良マラソンや色々なイベントを実施することになって、今、奈良県下の市町村もスポーツ振興を教育委員会から外そうとしているところもあります。教育委員会にあってもよいが、教育委員会は保健体育、学校スポーツというに閉じこもってしまうような傾向があるので、行政がスポーツ振興にもっと関わろうという流れになりました。これは数年前から取り組んでおります。そうすると、もっと健康のためのスポーツとか、そういうことができます。

学校スポーツと地域スポーツ、クラブスポーツの話で、総合型地域スポーツクラブの数は、奈良県は全国47位くらいで、それをもっと増やそうと考え、今22位くらいまで数は増えてきました。

本県のスポーツ振興の意志は、クラブスポーツ、地域スポーツ

でやろうという強い意志を持っています。学校のスポーツをないがしろにするわけではありませんが、学校の先生の部活は勤務ではないというのが学校の認識です。先生がボランティアで部活をされているということです。先生が熱心であればよいが、生徒は卒業するし、先生は隣の学校の生徒は教えられないということです。実はまだ課題であります。総合型地域スポーツクラブで学校の先生、現役でも退職後でも良いが、コーチング能力を地域のクラブスポーツでどのように活かせばよいか、あるいはトップアスリートが若くして、スポーツの一線から退かれる時、そのコーチング能力を地域スポーツにどのように活用していくのか、ということが大きな課題だと考えています。それは、学校に戻るのではなく、地域のスポーツクラブで活用できないか、ということで、その仕組みを考えておりますが、今どのようにすればよいかのテーマが出されましたので、大変ありがたいことだと思っております。

またトップアスリートは、クラブから成長しますので、クラブは広くスポーツの裾野を広げるほかに、トップアスリートをどのように育成するかというような課題もあると思います。その関係でスポーツと医学のことが出ましたが、はっきりとは記載していませんが、地域スポーツトレーニングセンターというものをつくっていかうかと考えています。地域のトレーニングセンターです。ナショナルトレーニングセンターという大きいものはありますが、医療とスポーツを結びつけたものを地域でできないか。これは県が直接的に力を入れられる面がありますので、スポーツと医療が結びついた組織が今あまりありませんので、それを結びつけようかと思っております。医療では血圧を測るとか色々あるのですが、先日、マラソンで有森さんが来られて言われたことは、一番大事なものは歯科、歯が大事であるとおっしゃったので、そういう観点があるとは非常におもしろいと思いました。医療と体の測定とか検査は非常に大事だと思います。地域トレーニングセンターの中でそういうことをしたいと考えています。

もうひとつの課題は、総合型地域スポーツクラブの支援センターのヘッドクォーター機能をどのようにするかということです。地域トレーニングセンターと共有できるかどうかは、まだはっきりと固まっておりません。そういう両方の機能が必要なのではないかと、総合的な地域スポーツクラブを支援する機能を向上させる

には、どのようにすればよいかという課題を持っております。

もうひとつはスポーツ施設のあり方ですが、先ほど申し上げましたように、施設ありきではなしに、活動しながら必要なものを改修するなり、機能向上するなりして使っていこうということです。県は、ファシリティマネジメントという考えを持っております。改修の時期は必ず来るわけですが、ファシリティマネジメントは、現有施設をどのように、財政的負担をどのように分散させて、計画的に改修し、古くなった施設の改廃などを行うかということです。県営プールも古くなったから移転して新しいものをつくるということではできたわけです。スポーツ施設の整備で、体育館を何年までにつくるという発想は現在はありません。どのような機能が必要かを調べて、改修をしながらそれに充足するという、スポーツ施設のファシリティマネジメントをもう少し取り入れていきたいと思っております。それは県の施設だけでなく、市町村の施設、民間施設も含めたファシリティマネジメントであると思っております。そのような施設の整備については、まだこの計画の中では整っていないので、記載できなかったということでございます。

施設の改修だけでなく、運営、施設というのはメンテナンスも大事ですので、指定管理を導入したり、民間の事業者を入れたりと考えています。

そのなかでトイレが重要です。これはスポーツ施設だけでなく、色々なところで、奈良はトイレが貧弱だと、遷都1300年祭の時もよく言われました。広い車いすの入れる施設が無い。公衆トイレは公共施設には市、県の施設もありますが、トイレの整備を障害者、高齢者対応にする必要があると思っております。

先ほどおっしゃられた障害者福祉施設については、改修を積み重ねていますが、なかなか手がいかない。今は車椅子がバスに乗るのが普通になってきたので、時間はかかりますが、トランスポーテーション・フォー・オールという概念がだんだん定着してきました。ツーリズム・フォー・オール、スポーツ・フォー・オール、誰でもという概念が大事だと思います。for Allというのはincluding、障害者の方々も当然入ることが、この概念にはあります。障害者の方々の施設という面では、まだまだ不足しています。

それと立地ということですが、昔は施設が離れていても、スポーツというのはみんな歩いて行くなど、なかなか立地が良くない

ところもあります。立地を変えるのはなかなか難しいことですが、その都度、施設を整備する時に、立地も考えていこうと思います。これは時間がかかる、一気に施設というのはできないものでして、良い立地をするように、良い施設になるように、順繰りにマネジメントしながら実施していくものと、県では考えております。

他の市町村とも一緒に考えていただくように、そうするには、条例が必要です。条例は市町村に対しても、メッセージが出るということでございますので、県と市町村とのスポーツ推進協議会を設置して、スポーツ推進条例の検討をしていきたいと思っております。そして、できるだけ具体的になるようなことをしていきたいと思っております。

それから奈良マラソンについて、3年で成果があがって、大変うれしく思っておりますが、出だしの時は本当に奈良でマラソンができるかという状況でありました。奈良の風習かもしれませんが、やると大体すごくアタックが来る。文句ばかり来て、3年たつとこんなに褒められるとは思いませんでした。本当に不思議な地域だと思います。最初からなにか一緒にやろうと言ってくれれば、すごく勇気が出るのに。やはり一所懸命やる人がいるから成功すると人が集まってくるという、良いサイクルで奈良マラソンは実施できたと思います。奈良の市民も最初は、交通を止めたことに随分文句が多かったが、今年是一件も出なかった。県警がそのように言ってくれています。これは市民のなかに定着した。しかもお年寄りが応援を、おばあちゃんが口紅を塗って家から出てきてくれたなど、とても雰囲気良かったように思います。奈良マラソンはそのように成長したと思います。先ほど、ホームステイという良いアイデアをいただきました。大阪マラソン、神戸マラソンは抽選ですが、奈良は先着順です。マラソンをやっている人はよく知っていて、奈良はずっと先着順にしてくれという声が複数届いています。

それから、健康ステーションですが、実は健診率が低いので、健診を容易に受けられる、ワンコイン健診のような、スーパーマーケットのような健診ステーションを始めようとしたものです。これは、複数の府県で実施し始めています。それを真似して健康ステーションとしようかと考えています。それを発展させてスポーツクラブ健康ステーションに。リハビリはとても大事ですが、

県は奈良県リハビリテーションセンターを中央に持っていますが、それはリハビリの活動を拓げようとしています。それはそれで大事なことですが、スポーツを舞台に結びつけて新しい観点ですけれども、このきっかけは検診回数を増やそうというところでは

あと、県のスポーツ振興は、計画に記載するもののみ行うのではなく、毎年意見をいただいて、色々力をいれようと思っております。先ほど、辰野委員がカヌーについておっしゃいましたが、大滝ダムが開設30年位になりますが、その時、ダムの周りに多くの樹木を植える計画も出てきております。桜の花が山一面にある下をカヌーで行こう。これは競技になるかわかりませんが、大きな桜がわっと咲いている所で、大滝ダムの湖面を航行するだけでも素晴らしいと思えました。これも新しいスポーツ、地域を利用したスポーツです。そこからもう一つ、計画にも少しは記載していますが、ゴルフ場が空いているので、地域の女性にゴルフしましょうと誘っています。ゴルフ場に、女性、地域の人がもっと出るようなタイプのスポーツというのも考えております。

答えというよりも、今いただいたご意見に、非常に建設的な中身が入っていると思いますので、できるだけこなしていきたいと考えています。全体の流れの中で定着する話も多かったと思いますので、申し上げた次第です。

藤野委員がおっしゃられたスポーツ推進条例は、来年1年でつくって、遅くとも来年度の2月議会までに提案させてもらって、平成26年度の事業につなげていきたいと考えています。これは市町村も、ある程度巻き込めたら良いということで、条例化のなかで、市町村とのスポーツ推進計画を進めていきたいと思っております。条例の主役ではないですが、民間の人と一緒にするような、公の方から働きかけるような精神が入るようになったらと思っております。施設についても、公の施設も、だんだん民営化とか、民有の前に民営化というようになってくるのではないかと考えております。だんだん民的な力が入るように、民活の仕組みを、試行錯誤になると思いますが、その方がスポーツを推進する力がとても馬力アップするのではないかと考えております。それは条例でも検討課題であると思っております。

今日は、県のスポーツ推進計画を議論していただき、その過程で色々な意見をいただいたと思っております。県は何ができるかということだけでなしに、ご議論いただくこと自身は大変ありが

たいことだと思しますので、今このような計画を策定して、このような議論をしていただいた動きと過程の説明ということになってしまいましたが、そのようなことです。

あと、この審議会は来年も活動していただくようになっていたと思いますが、この計画をつくるためだけの審議会ではなく、意見を引き続きいただいて、そのなかで進捗についての報告や議論をいただくようにできたらと思しますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

大変長くなって失礼しましたが、ありがとうございました。

佐久間会長： どうもありがとうございました。この推進計画に関する今後の我々が考える上で、根拠となるような案もあったかと思ひます。

今回ご意見いただいたなかで、参考にしていくのですが、色々ご意見はまだおありかと思ひのですが、私と事務局の方で検討させていただきまして、それを改めてまた、各委員の方にご意見をいただいていくという形で進めたいと思ひておひますが、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは今後のスケジュールについて事務局の方からお願ひします。

事務局： 大変貴重なご意見ありがとうございました。委員長からありました通り、委員長と私たちの方で、最終とりまとめをさせていただきたいと思ひておひます。その後、年明けのできるだけ早い時期にパブリックコメントを実施したいと思ひておひまして、その後2月には議会に報告したいと考えておひます。

佐久間会長： 今後のスケジュールにつきましては、今紹介したとおひですが、そのように進めたいと思ひておひますので、よろしいでしょうか。

それでは本当にお忙しい中、ありがとうございました。

事務局： 佐久間会長、委員の皆様、ありがとうございました。引き続き来年度でございますけれども、年度当初と年度の終わりくらいにはこういう審議会を設けまして、皆さま方からのスポーツに関するご意見などをいただきたいと思ひます。

3 閉会

それでは以上をもちまして、平成24年度奈良県スポーツ推進審議会第3回定例会を終了します。

以上